



芸人本



October - November 2023

こんな本



読んでみて

No. 103

目次

芸人本 1

Book design の世界 vol.33 10

ちょこちょこ日記 #43 12



今回は、お笑い芸人が書かれた本を特集します。

文章からその人の声が聞こえてくるような気がして、楽しく読み進めていくと、人間的な魅力や笑いの裏に込められたメッセージが感じられます。

芸人ならではの視点から生まれた味わい深い本の魅力をお楽しみください。

『むき出し』

著 者／兼近大樹
出版社／文藝春秋
出版年／2021年
請求記号／913.6||Ka 52



暴力が当たり前の環境で育った石山大樹。ある出会いをきっかけにお笑い芸人を志す。階層の隔たりや分断が立ちだかる中、人生を変えることはできるのだろうか。初の小説作品。

兼近大樹 さん

1991年北海道生まれ。お笑いコンビ「EXIT」として活動中の漫才師。また、音楽活動や洋服ブランドのプロデュースなど、芸人の枠を超えて幅広く活動している。

『これはちゃうか』

著 者／加納愛子
出版社／河出書房新社
出版年／2022年
請求記号／913.6||Ka 58



絵画展の最終日、締切に現れる怪奇、駅が生える町…。日常から少しずれた場所に現れるおかしさと、テンポよく流れる会話がクセになる、色彩豊かな6つの短編小説。初の小説集。

加納愛子 さん

1989年大阪府生まれ。2010年に幼馴染の村上愛とお笑いコンビ「アマツソ」を結成。ネタ作りを担当している。著書にエッセイ『イルカも泳ぐわい。』。

『本音の置き場所』

著者／バービー
出版社／講談社
出版年／2020年
請求記号／779.14||B 12



はっとするような言葉で赤裸々な本音がつづられています。思い出の料理コラムや、読者のお悩み相談も収録。自分の本音に気づくことができる一冊です。人気連載を単行本化した、初のエッセイ集。

バービーさん

1984年北海道生まれ。2007年、お笑いコンビ「フォーリンラブ」を結成。男女の恋愛模様をネタにした「イエス、フォーリンラブ」の決め台詞で人気を得る。エッセイの執筆、コメンテーターとしても活躍。

『僕の人生には事件が起きない』

著者／岩井勇氣
出版社／新潮社
出版年／2019年
請求記号／779.14||I 93



どんな日常でも違和感や疑問を持って想像を巡らせてみると、生活がきっとおもしろく思えてくるはず。相方ならではの視点で澤部さんを分析されています。自筆のイラストにも注目です。本作が初めての著書。

岩井勇氣さん

1986年埼玉県生まれ。幼稚園からの幼馴染だった澤部佑と2005年に「ハライチ」結成。結成後すぐに注目を浴びる。ボケ担当でネタも作っている。

『今日の空が 一番好き、 とまだ言えない僕は』

著者／福德秀介

出版社／小学館

出版年／2020年

請求記号／913.6||F 84



人目を避けて過ごしている大学2年生の「僕」は、ある日、凜とした姿が印象的な桜田さんと出会います。テンポのいい言葉でつづられた、心にしみる青春恋愛小説。小説デビュー作。

福德秀介さん

1983年生まれ、兵庫県出身。関西大学文学部卒。同じ高校のラグビー部だった後藤淳平と2003年にお笑いコンビ「ジャルジャル」を結成。TV・ラジオ・舞台・YouTube等で活躍。キングオブコント2020優勝、第13代目キングに。

『完全版 社会人大学 人見知り学部 卒業見込』

著者／若林正恭

出版社／KADOKAWA

出版年／2015年

請求記号／779.14||W 17



単行本未収録連載を加え、完全版として文庫化した作品。社会との違和感。自意識との戦い。自分と向きあうことの難しさと覚悟。心にぐっと迫ってきます。ドラマ『だが、情熱はある』の原案となった一冊。

若林正恭さん

1978年東京生まれ。中学・高校の同級生、春日俊彰とお笑いコンビ・ナイスミドルを結成。その後、オーディリーと改名した。ツッコミ担当。2008年の「M-1グランプリ」で総合2位となり、大ブレイク。その後バラエティを中心にテレビ、ラジオで活躍中。

『人間』

著者／又吉直樹
出版社／毎日新聞出版
出版年／2019年
請求記号／913.6||Ma 71



永山の38歳の誕生日に届いた一通のメールが、美術系の学生が集う「ハウス」での記憶を呼び起こします。青春の痛みとその後も続いていく人生を描いた作品。毎日新聞連載の単行本化。

又吉直樹さん

1980年大阪府寝屋川市生まれ。吉本興業所属の芸人。お笑いコンビ「ピース」として活動中。2015年に本格的な小説デビュー作『火花』で第153回芥川賞を受賞。

『月と散文』

著者／又吉直樹
出版社／KADOKAWA
出版年／2023年
請求記号／914.6||Ma 71



最新エッセイ集。コロナ禍の日常を描いた作品や、言葉あそびや思考実験のような作品など様々なタイプの文章が集められています。同じ時代の中で紡がれた言葉からは、やさしさが感じられます。絶妙な視点と言葉を堪能することができます。一冊です。



Book design

の世界

vol.33

坂川 栄治 さん

(坂川事務所)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第33回目は、坂川栄治さんです。

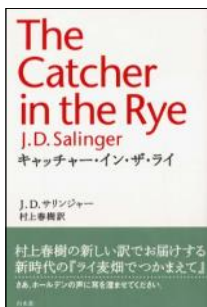
坂川栄治さんは1987年に坂川事務所を設立、1993年には講談社出版文化賞ブックデザイン賞を受賞されました。手がけた装丁は6000作を超え、『TUGUMI』(吉本ばなな著/中央公論社/1989年)をはじめとする数多くのベストセラー作品の装丁を手掛けられました。また、坂川さんの娘である坂川朱音さん(前回vol.32にてご紹介)も装丁家として活動されています。



装画：森田MiW
装幀：坂川栄治+坂川朱音
(坂川事務所)

はじめにご紹介するのは『忘れられた巨人』(カズオ・イシグロ著/土屋政雄訳/早川書房/2015年/933||73)です。坂川さんは、ノーベル文学賞作家カズオ・イシグロさんの6作品の装丁を手掛けられました。島にある老木をモチーフにした装画が使われ、霧に満ちた大地の雰囲気を感じる装丁です。

『キャッチャー・イン・ザ・ライ』(J.D.サリンジャー著/村上春樹訳/白水社/2003年/933||Sa 53)は、不朽の青春文学『ライ麦畑でつかまえて』を村上春樹さんが翻訳した作品です。白地に赤い文字のタイトルが目目を惹く、シンプルでスタイリッシュな印象の装丁です。



装丁：坂川栄治+藤田知子
(坂川事務所)



装丁：坂川栄治+嶋田小夜子
(坂川事務所)

装画：イヌイマサノリ

『誕生日大全 増補版』(サッフィ・クロフォード,ジェラルディン・サリヴァン著/アイディ訳/主婦の友社/2016年/148.8||C 91)は、366日すべての日の基本的な性格や人間関係などについて解説する一冊。神秘的な雰囲気と興味をそそられるポップな印象が共存した装丁で、厚い本ですが思わず手に取りたくなります。

『八日目の蟬』(角田光代著/中央公論新社/2007年/913.6||Ka 28)は、第2回中央公論文芸賞受賞作で、ドラマ化・映画化もされた話題となった作品です。表紙の女の子は土の中の蟬、表から裏表紙に伸びた線は人生の分岐点、とイメージがふくらみ、装丁からも問いかけられているように感じます。



装画：水上多摩江(題字共)

装幀：坂川栄治+田中久子
(坂川事務所)



装画：影山徹

装幀：坂川栄治+永井亜矢子 (坂川事務所)

最後に『鹿の王 上・下』(上橋菜穂子著/KADOKAWA/2014年/913.6||U 36)をご紹介します。2015年本屋大賞受賞作です。上巻『生き残った者』と下巻『還って行く者』の対比がインパクトのある装丁から強く感じられます。物語の壮大な世界に導かれる装丁です。

坂川さんは、読者の目を忘れないために、あえて原稿を読まずに編集者との打ち合わせで聞き出したキーワードを元に装丁をされていたそうです。そんな坂川さんの装丁は、作品全体を包み込むような魅力的な空気感があり、魔法のように惹きつけられる魅力を感じます。坂川さんが手掛けられたたくさんの「本の顔」はきっとこれからも長く愛されることでしょう。

参考：「クリエイターズ・アイ/装丁家 アートディレクター 坂川栄治氏 スペシャルインタビュー」

『FGひろば』Vol.172, 富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ, 2018/1月発行, 2023/9/20参照, https://asset.fujifilm.com/www/ffgs/files/2020-05/4bd81874dde0cb480138b7826fa68a0d/prmagazine_vol172_01.pdf

「カズオ・イシグロ最新長編『クララとお日さま』装丁家・坂川朱音さんインタビュー」
ダ・ヴィンチweb, 2021/6/16, 2023/9/20参照, <https://dnavi.com/interview/771640/a/>

ちょこちょこ日記 #43 「芸人本つづき」

今回の特集テーマは、「芸人本」でした。こちらのコーナーでも引き続き「芸人本」を紹介したいと思います。



『ごみ清掃芸人は見た！

リアルでゆかいなごみ事典』

滝沢秀一著／大和書房／2020年／518.52 /Ta 73

こちらは、お笑いコンビ・マシンガンズの滝沢秀一さんが、ごみ清掃の仕事で実際に体験したエピソードを交えながら、様々な「ごみ」を紹介する一冊です。「捨てられているごみには物語がある」という滝沢さん。独特の視点で語られるごみのエピソードをおもしろく読んでいるうちに、迷ってしまうごみの分別について勉強になって、ごみを出すということについて考えさせられます。「買う瞬間、その手に取った物を最後まできちんと使い切れるかどうかを、一度でいいからチラリと考えてほしい」そんな滝沢さんの言葉が心に響きます。ぜひ読んでみてください。

次号 No.104 は、2023年12月発行予定です。

こんな本読んでみて No.103

2023年10月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>